

天井川地形の発達史と人間活動
 —京都盆地沖積低地遺跡の自然地理学的成果（1993～2008）を例に—
 Development of Flying River Gornomorphology and Hman Ativity
 -Physical geographic Studies1993-2008 in Archaeological Sites, Kyoto Basin Alluvial Lowland-

○中塚良

○Ryo NAKATSUKA

This study represents historical development of landform and landscape morphology about Raised bed river as complex of archaeological and physical geographic source materials. Remarkable recent rising time of river bed or water level in Kyoto basin suggested two phases of 13-15c and 18c A.D. in Tenjin river Kaniman-ji site or 15c and 16c in Heian-kyo site by physical geographic studies. This presentation shows methods and subjects for discussion to investigate and interpret Raised bed river process as historical geomorphologic objects from field works1993-2008.

1. はじめに

(1) 天井川地形研究の契機・展開

演者は発掘現場の調査成果を端緒に、遺跡と地形の関わりの歴史を学んできた。歴史的な自然地理学、いわば「遺跡地形学」的立場にある。人と自然のせめぎ合い、折り合いが織りなす中近世の地形「天井川」は研究対象の一つとして魅力的だ。1993年、京都盆地南部の木津川支流のひとつ、古代史跡蟹満寺の景観を高い堤体で分断する河川、天神川の地形調査を遺跡調査地で手がけた。遺跡および周辺地域の微地形分析をおこない文献成果を参照し14～19世紀にかけての天井川の発達史を編んだ。その後、城陽丘陵西縁に発達する大谷川扇状地～木津川低地（『城陽市史』2002）、長岡京が営まれ古くより開発の手が及ぶ、日常のフィールドである桂川低地と支流河川群の調査を進め、現在は盆地中央部「三川」合流低地および河床遺跡調査成果（2004）から本流—支流関係での河床変動過程に検討を加えるに至っている。本流—支流河川の挙動の関係性、応答の可能性については、1993年調査開始時に殆ど注意を払えなかった。

(2) 課題・目的

今回、防災研共同研究において天井川地形の形成過程の解明に二ヶ年取り組む。演者にとって再び木津川流域を中心とする遺跡の地形にメスをいれる機会となるが、同時にこれまで得た情報を集約する場に相当する。また天井川化時代前・後における地形条件変化、土地利用史に関わる発掘成果との比較からこの時代の地域的、歴史的性質を叙述、考察する場にもあたる。

2. 京都盆地の天井川地形の発掘成果 1993～2008

(1) 遺跡における河床・水位変動の解説

遺跡調査結果にもとづく近年の地形発達史的成果では、15世紀・16世紀以降2段階の河床上昇が報告されている（平安京域支流河川。河角, 2004）。後者が天井川地形出現の時代とされ、河床上昇は排水不良を引き起こし後背湿地的環境を拡大させたという。演者が現在取り組む長岡京左京域低地の発掘現場（縄文時代後・晩期沖積段丘面、左京530次）の場合、遺跡周辺は排水不良水田域として知られるが、10世紀頃以降14世紀前半を下限とする湿田離水用とみられる造作（礫材利用の地形（業）：広域切土・地ならし痕跡）を確認した。近年、離水用施設の調査例が蓄積されつつある。乾田化での農業生産性向上とともに、発達史的側面からは河川水位（河床）上昇＝排水不良化への対応の可能性が示唆される。前述、木津川河床遺跡は寒川（1992）の地震考古学的研究対象として知られるが、今春の高水敷・低水路境界の発掘調査（京都府埋文センター実施）では、近世末の旧耕作層準を切る噴砂が確認された。平安時代後期～中世以降段階的に耕作土が敷設され利用面が上昇を始める。直接の液状化記録層準同様、過去の河床上昇期、天井川化時代の河床レベル記録計として遺跡層序を活用しうる可能性が考えられる。

(2) 天井川地形に関わる遺跡成果紹介

本発表では調査研究の端緒から最近の成果まで通覧的にプレゼンしたい。出発地となった天神川低地では13～15世紀、18世紀の2段階での河床上昇を捉えたが、後の成果との対比を試みる。